

決算別紙

計数は単体ベース（以下同様）

（億円・％）

	2022/3期	2023/3期	2024/3期	前期比
業務粗利益	1,189	1,218	① 1,228	10
資金利益	1,036	1,075	1,106	30
役務取引等利益	74	83	111	28
特定取引利益	61	84	65	△18
その他業務利益	17	△23	△54	△30
コア業務粗利益	1,185	1,246	1,261	15
経費(△)	661	693	② 737	44
実質業務純益	528	525	491	△33
コア業務純益（一般貸引繰入前）	523	552	524	△28
一般貸倒引当金繰入額(△)(a)	3	7	③ △8	△15
臨時損益	△223	△209	△281	△71
不良債権処理額(△)(b)	204	200	③ 291	91
経常利益	302	308	219	△89
特別損益	6	1	△10	△11
法人税、住民税及び事業税(△)	80	103	100	△3
法人税等調整額(△)	44	△23	△44	△20
当期純利益	183	229	153	△76

OHR（経費/業務粗利益）	55.5%	56.8%	59.9%	3.1%
与信費用(a)+(b)（△は戻入益）	207	207	283	75
総自己資本比率	12.76%	13.16%	13.00%	△0.16%
普通株式等Tier1比率	11.71%	11.53%	11.11%	△0.42%

- コア業務粗利益は、業務粗利益から国債等債券損益を控除
- 実質業務純益は、業務粗利益から経費を控除
- コア業務純益（一般貸引繰入前）は、実質業務純益から国債等債券損益を控除。また、同項目に含まれる投資信託解約損益は、2022/3期および2023/3期該当なし、2024/3期は1億円

ポイント

①【業務粗利益】

高度金融サービスの成長を主因に増収トレンドを継続

- ・ ストラクチャードファイナンス等の高度金融サービス領域において、専門部署の体制強化やファンド等との連携強化に伴うパイプライン拡充が奏功し、役務取引等利益が前期比28億円増加
- ・ 貸出ボリュームは、危機対応融資の返済が本格開始した一方、差別化分野を含むプロパー貸出にて資金ニーズに対応した結果、前年度末程度を維持
- ・ その他業務利益には国債等債券売却損34億円を含む

②【経費】

経費コントロールのもと目標とするOHRを維持

- ・ システム関連投資や人的資本投資等、ビジネスモデルを支えるための先行投資により前期比44億円増加となったが、OHRは60%程度で着地。今後も適切な経費コントロールのもと、必要な投資を実施

③【与信費用】

倒産・デフォルトの増加により与信費用は増加

- ・ 私的整理案件や粉飾による倒産・デフォルトが増加し前期比75億円増加の283億円。期末にかけては単月実績が前年同月を下回る傾向にあるが、引き続き経営改善・事業再生支援に注力

目標とする経営指標

	2023/3期実績	2024/3期実績	2025/3期目標	中計目標 (2025/3期)
業務粗利益	1,218 億円	1,228 億円	1,270 億円程度	—
経費(△)	693 億円	737 億円	770 億円程度	—
業務純益	525 億円	491 億円	500 億円程度	500 億円程度
経常利益	308 億円	219 億円	230 億円程度	—
純利益	229 億円	153 億円	160 億円程度	250 億円程度
OHR	56.8 %	59.9 %	60 %程度	60 %程度

(参考) 差別化分野の実績

お客様のライフステージごとの経営課題に対応

Startup スタートアップ支援

スタートアップ特有の課題を踏まえた一気通貫のサポート

	2023/3期	2024/3期
スタートアップ企業 に対するファイナンス 実行件数・金額	280 件 420 億円 程度	280 件 330 億円 程度
スタートアップ企業 への ビジネスマッチング取次	350 件 以上	1,050 件 以上

ESG サステナブル経営支援

“SPEED”の視点を活用した事業性評価や顧客支援を推進

	2023/3期	2024/3期
ESG診断 サービス提供	800 件 程度	450 件 程度
サステナブル ファイナンス 期末件数・残高	51 件 190 億円	142 件 551 億円

Turn Around 事業再生支援

専門性向上と対応力の底上げにより事業再生のトップブランドを構築

	2023/3期	2024/3期
支援対象先* ランクアップ率	8.9 %	13.1 %
支援対象先* の引当戻り額	22 億円	19 億円

*2023/3期 約4,800社
2024/3期 約4,100社

上記は、現時点における当金庫の見込み又は目標です。当金庫は非上場企業であり、上記は上場会社の決算短信における業績予想とは異なります。上記の見込み又は目標が変動するような事情が生じた場合にも改めて予想を開示することは、現時点で予定しておりません。

トピックス

- ・ 中小企業のサステナビリティ向上に向けた取組みを、さまざまな形で評価いただきました。
- ・ これからも商工中金は、お客さまの経営課題解決をサポートし、中小企業や社会のサステナビリティ向上に貢献してまいります。

2024.2

第5回ESGファイナンス・アワード・
ジャパン*

間接金融部門：特別賞



- ・ 商工中金は、中小企業の皆さまの取組みを支援することを通じて、持続可能な社会へ貢献していきます。
- ・ 今回、商工中金のサステナビリティへの取組みが評価され、環境省が主催する「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」間接金融部門で**特別賞を受賞**しました。
- ・ 商工中金の取組みについて主に評価された点
 - ① ポジティブインパクトファイナンスに積極的に取り組み、地域金融機関との連携を通じてESG分野における取組の多様化に貢献
 - ② 調達と融資を一体化した「インパクト預金」のスキームを構築。環境・社会問題に貢献したい預金者と、問題に取り組む中小企業とを繋ぎ、社会全体のサステナビリティ向上を試みている

*ESGファイナンス・アワード・ジャパン

環境省がESG金融のさらなる普及・拡大に向け開催するアワード。ESG金融に積極的に取り組む金融機関や諸団体、サステナブル経営に取り組む企業を評価・表彰し、その内容を社会全般に広く共有することを目的としており、今年で5回目を迎える。

環境省報道発表資料 第5回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」受章者の決定について

https://www.env.go.jp/press/press_02775.html

2024.3

ウェルビーイングアワード2024**

モノ・サービス部門：GOLD



WELLBEING AWARDS
2024
GOLD

- ・ 商工中金は、個人の生産性や創造性と密接な関係がある「社員の幸せ」に着目し、中小企業が取組みやすい仕組みで、従業員の幸福度を可視化する「幸せデザインサーベイ」を提供しています。
- ・ 今回、「幸せデザインサーベイ」が「ウェルビーイングアワード2024」モノ・サービス部門で**GOLDを受賞**しました。
- ・ 「幸せデザインサーベイ」について主に評価いただいた点
 - ① 日本の経済を支える中小企業にフォーカスを当て、ウェルビーイングの考え方をわかりやすく広める大きな一歩
 - ② 個々では取り組みが難しい中小企業とその従業員に、個人と会社、双方の幸せをリンクさせる気付きを与え、新たなビジョンの確立につながる施策

**ウェルビーイングアワード2024

朝日新聞社、株式会社 Hakuodo DY Matrix、株式会社 SIGNING が共同で設立したウェルビーイングアクション実行委員会が主催。多様な幸福価値観と健康に向き合い、認め合える社会づくりに貢献したウェルビーイングな「商品・サービス」「活動」「組織」に光を当て、世の中に広めていくことで、ウェルビーイングな社会を推進する取組み。

ウェルビーイングアワードプロジェクトサイト https://www.asahi.com/ads/wellbeing_awards